

IoT総合戦略ロードマップ(案)

| | | ～2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 |
|-----------|--|--|-------------------|---|--------|---|
| ネットワーク層 | SDN/NFVの実装化 (情報通信審議会IoT政策委員会人材育成WG) | スキルセットの明確化 実習訓練環境の整備 スキル認定制度の在り方と推進体制の検討 | △ 結論 | 実習を伴う産学官連携したネットワーク人材の育成 | | 産学官連携したネットワーク人材育成体制の実装 |
| | 5Gの実現 (情報通信審議会情報通信技術分科会新世代モバイル通信システム委員会) | 5G研究開発、5G総合実証試験 5G標準化活動、連携団体の活動支援 技術的条件の検討 | △ 基本戦略とりまとめ | | | 世界に先駆け5G実現 |
| | ICT人材の育成 (情報通信審議会情報通信技術分科会技術戦略委員会) (サイバーセキュリティタスクフォース) | ユーザ企業等の人材に必要なスキルセット、講習会の在り方検討 実践的サイバー防御演習 | △ 結論 | スキルセットを踏まえたユーザ企業等向け講習会等の推進 ナショナルサイバートレーニングセンター(仮称)による人材育成 産学官連携した人材育成の在り方検討、必要施策の実施 | | ユーザ企業等におけるIoT利活用に関する理解度の向上 演習受講者：年間3,000人以上 |
| プラットフォーム層 | 認証連携基盤の構築 (個人番号カード・公的個人認証サービス等の利活用推進の在り方に関する懇談会) | 公的個人認証基盤の活用事例の実現に向けた実証実験、ルール整備等 | △ アクションプラン | 官民ID連携を実現するための制度整備、技術実証 ブロックチェーンと公的個人認証の連携の在り方等の検討 | | クラウド上の教材・地域人材等を活用したプログラミング教育を実施可能な学校：100% 個人番号カード・公的個人認証サービスを有効活用した認証連携基盤の実現 |
| | パーソナルデータの活用と個人の情報コントロール権の確保 (2020年に向けた社会全体のICT化推進に関する懇談会) | 共通クラウド基盤(IoTおもてなしクラウド)の構築・機能拡大、地域実証 | △ アクションプラン | 社会実装に向けた取組の推進 | | 実証実験の結果を踏まえ検討 |
| | システミックリスクへの対応 (サイバーセキュリティタスクフォース) (スマートハウスのリスクマネジメントに関する検討会) | 個人の医療・介護・健康情報を時系列的に管理できるPHRの実現に向けたアプリケーション及びプラットフォームの開発 | △ 一定の方向性の結論 | サイバーセキュリティ確保のための対応体制強化 IoTセキュリティ対策の検討、必要施策の実施 技術的対策の国際的な標準化団体への提案 スマートハウスの社会実装推進の取組 | | 実装主体数80団体 利用者数30万人 脆弱なIoT機器に関する国民及びメーカーへの周知徹底 標準化団体への標準化提案 スマートハウスの社会実装 |
| サービス層 | データ利活用の促進等に必要なルールの明確化等 | IoTサービス創出のための地域実証を通じた参照モデル構築、ルール明確化等 | △ | モデルの地域実装、ルールの整備、働きかけ等 | | 明確化するルールの数20 参照モデルの実装数50 |
| | データの取引市場に関わるルール整備 (IoT政策委員会基本戦略WG SWG) | データ取引市場の要件のガイドライン化、任意の認定制度の措置等を検討 | △ 一定の結論 | 社会実装に向けた取組の推進 | | SWGを踏まえ検討 |
| | 分野横断的なデータ流通環境の整備 (2020年に向けた社会全体のICT化推進に関する懇談会) | スポーツ等を通じて収集したデータの健康分野での応用等の検討 | △ | | | 懇談会を踏まえ検討 |
| 端末層 | 安全安心な自律型モビリティシステム | IoT共通基盤技術の開発、国際標準化に向けた取組 | △ | IoT共通基盤技術の開発、国際標準化に向けた取組 | | 国際標準の獲得 |
| | 多様なIoT端末の効率的な管理運用 | 自律型モビリティシステムを支える通信ネットワーク技術の研究開発 | △ | 社会実装に向けた取組の推進 | | 研究成果の社会実装等 |
| | 次世代AI技術の研究開発及び社会実装に向けた取組の推進 (情報通信審議会情報通信技術分科会技術戦略委員会) | IoT共通基盤技術の研究開発、国際標準化に向けた取組 | △ IoT共通基盤技術を開発 | 次世代AI技術の研究開発 IoT/BD/AI情報通信プラットフォームの社会実装 | | 国際標準の獲得 省電力、少数データで運用可能なAI技術の開発 |
| 縦断的課題 | IoTの地域実装の推進(地域IoT実装推進タスクフォース) データ利活用型スマートシティの構築 (ICT街づくり推進会議スマートシティ検討WG) | BMI等の脳情報通信技術や自然言語処理技術の社会実装に関する推進方策等の検討 | △ 戦略の策定 | 社会実装に向けた取組の推進 | | 先進的AI利活用モデルの構築 |
| | AIネットワーク化の推進 (AIネットワーク社会推進会議) | ロードマップ策定 (ICT人材の確保、地域資源の有効活用等を含む) 推進方策の検討 データ利活用型スマートシティの在り方 先行的取り組みの進め方 | △ 結論 一定の結論 | 地域への実装に向けた取組の推進 データ利活用型スマートシティの構築 共通的なプラットフォームの形成、ガイドラインやルール整備 ノウハウの共有や成果の検証 面的に拡大、国際展開 | | 全国各地域におけるIoT実装 多様な主体によるデータ利活用型スマートシティの普及拡大(10箇所程度) |
| | 国際的な政策対話の推進 国際標準化の推進 | 「AI開発ガイドライン」(仮称)の策定に向けた素案の整理 | △ とりまとめ | 「AI開発ガイドライン」(仮称)の策定に向けて、G7、OECD等と連携しつつ国際的議論を具体化・加速化 二国間・多国間の対話の実施 APECIにおける越境プライバシー・ルールの推進、EU等とのパーソナルデータの越境流通に関する対話の推進 サイバー空間における国際法の適用に関する議論に貢献 | | AI開発ガイドライン(仮称)の策定 越境データ流通を促進する環境整備 国際標準の獲得 |